

# 2025年3月期 第2四半期 投資家様向け決算説明会資料

名古屋鉄道株式会社

【証券コード 9048】

2024年11月20日

**01** 中間期の振り返り・通期業績予想の見直しについて

**02** 中長期経営戦略と成長ポテンシャルについて

**03** 当社運輸成績・中期経営計画の進捗について

**04** 2025年3月期 第2四半期(中間期)決算実績

**05** 2025年3月期 業績予想

01

# 中間期の振り返り・ 通期業績予想の見直しについて

## ■ 2025年3月期 第2四半期連結業績

( ) は増減率 (単位：億円、%)

	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減	前回予想 (5月時点)	増減
営業収益	3,345	2,837	507 (17.9)	3,300	45 (1.4)
営業利益	241	159	82 (52.0)	200	41 (20.8)
経常利益	284	172	111 (64.3)	200	84 (42.1)
親会社株主に帰属する 中間純利益	215	99	116 (116.3)	140	75 (54.2)

## ■ セグメント別営業利益

(単位：億円)

	2025/3 第2四半期	前期 増減
交通	118	+ 37
運送	10	+ 0
不動産	91	+ 25
レジャー・サービス	14	▲ 4
流通	▲ 11	+ 7
航空関連サービス	7	+ 11
その他	8	+ 4
調整額	1	+ 0
合計	241	+ 82

## ■ 連結業績のポイント

<対前期>

【営業収益】 **増収**

- ・ 運送事業の増収 (NXトランスポート子会社化)
- ・ 不動産事業の増収 (マンション売上増)
- ・ 交通事業の増収 (運賃改定効果・需要回復)

【営業利益】 **増益**

- ・ 増収により増益

<対5月予想>

【営業収益】 **増収**

- ・ 需要が回復傾向にあるレジャー・サービス事業を中心に増収

【営業利益】 **増益**

- ・ 増収により増益

## ■ 主なコーポレートアクション

◆ 5月24日

トーセイ株式会社との資本業務提携締結  
⇒ 当期から持分法適用会社化

◆ 5月30日

2033年満期ユーロ円建転換社債型新株  
予約権付社債及び2034年満期ユーロ円  
建転換社債型新株予約権付社債の発行  
(開示)  
⇒ ゼロクーポンで500億円を調達

## ■ 2025年3月期 連結業績予想

	今回予想	前回予想	増減
営業収益	6,860 億円	6,750 億円	110 億円
営業利益	410 億円	400 億円	10 億円
経常利益	460 億円	405 億円	55 億円
親会社株主に帰属する当期純利益	290 億円	280 億円	10 億円
純有利子負債※/EBITDA 倍率	5.9 倍	6.0 倍	▲ 0.1 pt
ROE(純利益/自己資本)	6.4 %	6.2 %	0.2 pt

※純有利子負債=有利子負債-現預金・短期有価証券

## ■ セグメント別営業利益予想

(単位：億円)

	今回予想	前回予想	増減
交通	174	160	+ 14
運送	25	39	▲ 14
不動産	156	148	+ 8
レジャー・サービス	24	24	—
流通	▲ 16	▲ 14	▲ 2
航空関連サービス	17	16	+ 1
その他	29	26	+ 3
調整額	1	1	—
合計	410	400	+ 10

### 【営業収益】 増収

観光需要が回復傾向にあるレジャー・サービス事業や資産売却を見込む不動産事業を中心に増収の見込み

### 【営業利益】 増益

運送事業での減益を見込むものの、交通事業や不動産事業を中心に連結全体では増益の見込み

### 【経常利益】 増益

営業増益に加え、持分法による投資利益の増加に伴う営業外損益の改善により増益となる見込み

### 【当期純利益】 増益

特別損益の悪化を見込むものの、経常増益により増益となる見込み

02

## 中長期経営戦略と 成長ポテンシャルについて

# 5つの成長ポテンシャル

## 経営ビジョン

私たちは、信頼の源泉となる  
「安全」を基盤として、  
「驚き」から「感動」、そして「憧れ」につながる  
名鉄グループならではの価値を  
提供し続けます

## 2040年のありたい姿

「地域」を創る、  
「社会」を支える、  
そして「まち」を彩る  
～リーディングカンパニー～

## 中長期経営戦略

- ◆魅力ある地域づくり・まちづくり
- ◆公共交通を中心とする  
モビリティネットワークの実現
- ◆稼ぐ力の強化・構造改革の推進
- ◆攻守両立による経営の強靱化
- ◆人的資本の充実

新たに策定した「経営ビジョン」「2040年のありたい姿」「中長期経営戦略」を踏まえ、  
中長期的な成長につながる可能性を秘めた「5つのポテンシャル」の追求を  
念頭に置いて取り組みを進める

### <5つのポテンシャル>

リニア開業を控える  
中部圏の都市開発  
(特に名古屋都心)

公共交通分担率の  
押し上げ

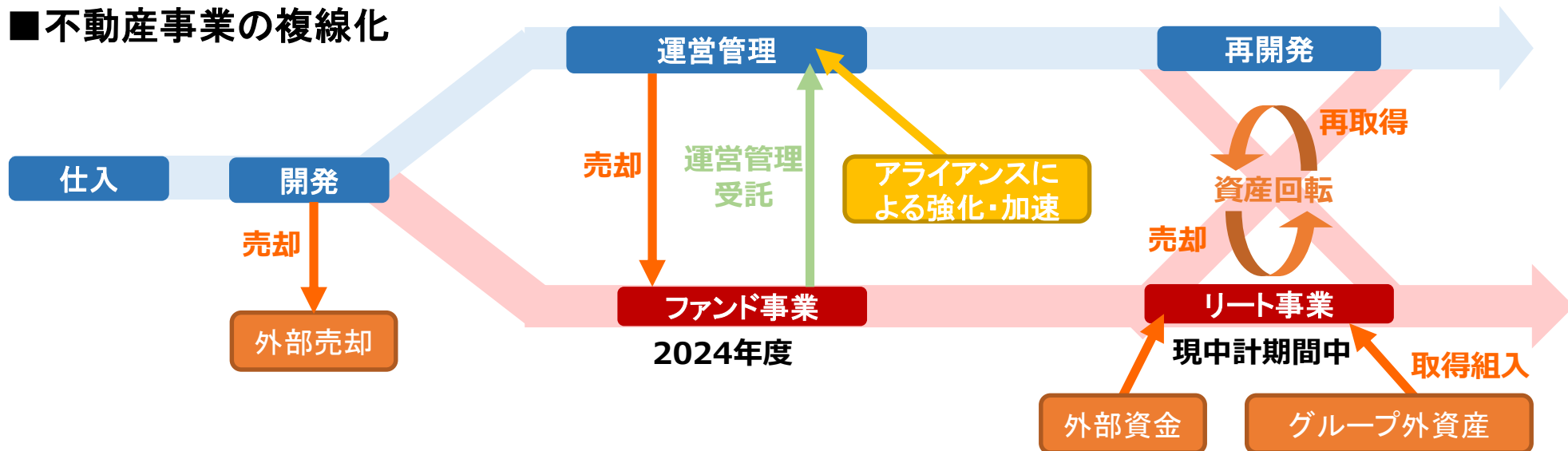
観光交流需要の獲得

高付加価値化

BtoGビジネスの拡大

## 中部圏に外部資金を呼び込み、当地域の不動産開発を加速

### ■不動産事業の複線化



### <回転型ビジネスへの参入意義>

- 事業の成長と財務規律の維持を両立
- 自社保有にこだわらない関与資産の大胆な拡大
- PM・BM事業等フィービジネスの拡大

### ➤ 第一号ファンドの組成に向けて

- 各種許認可手続きを進め、2025年1月運用開始予定
- 名古屋エリアを中心に、駅近等の好立地で、稼働の安定した競争力の高い賃貸レジデンス物件、繁华性の高いロードサイドの商業底地物件の組み入れを想定
- 組成当初の規模は100億円程度を想定

### <回転型ビジネス参入により期待する効果>

- 中部圏を中心としたリート事業の推進により当地域の不動産市場が脚光を浴び、外部資金の更なる呼び込みにつなげたい

### ➤ リート事業への参入に向けて

回転型ビジネスの安定的な受け皿となるリート事業への早期参入に向けて検討を推進



## 確かなノウハウを持つパートナー企業とのアライアンスにより不動産事業を強化・加速

### ■ トーセイ株式会社

2024年度～



#### ➤ トーセイの概要・強み

- ・首都圏における中小規模不動産の再生・開発、不動産ファンド、ホテル運営
- ・首都圏における豊富な不動産投資実績、不動産ソリューション力
- ・豊富な不動産ファンド運用実績

#### ➤ 取り組み事項

- ・名古屋圏、首都圏における共同事業の推進
- ・不動産テック事業及び私募ファンド事業における共同案件の推進
- ・人材・ノウハウ面における連携

#### ➤ 2025年3月期業績予想への織り込み

- ・持分法適用会社化により持分法投資利益として29億円(負ののれんを含む)を計上見込み

### ■ 株式会社ザイマックスグループ

2021年度～



#### ➤ ザイマックスグループの概要・強み

- ・全国のオフィスビル・商業施設・物流施設等、約13,000の施設を運営する独立系不動産マネジメント会社

#### ➤ 取り組み事項

- ・東海エリアを中心に不動産運営・管理事業の積極的な拡大
- ・名鉄グループとザイマックスグループ間で相互出資関係を通じて連携強化
- ・名鉄都市開発グループ3社と相互に人材派遣
- ・名鉄グループ保有の商業施設・オフィスビル等の不動産資産運営管理業務について、ザイマックスグループと連携して構築した新たなスキームでの運用を開始

## <主な開発スケジュール>

2024年度

2025年度以降

2030年代



2024.4.25 OPEN  
東岡崎駅南口商業施設  
SWING MALL



2024.10.23 OPEN  
布袋駅高架下商業施設  
MOKU KICHI



2024.9.6 OPEN  
観光商業施設 あつたnagAya



2025年3月末供用開始予定  
岐阜公園官民連携にぎわい創出事業  
(Park-PFI)

- ・物流施設「MCD-LOGI 小牧」  
(2025年春竣工予定)
- ・新一宮駅ビルリニューアル計画  
(2025年度中開業予定)
- ・東岡崎駅北口地区第一種  
市街地再開発事業  
(2029年度中竣工予定)
- ・名鉄岐阜駅エリア再開発  
(未定)

名  
駅  
再  
開  
発

## 地域と連携し、本物の日本を訪れたいという 質の高いインバウンド観光需要を狙う

① 「飛騨高山」と「犬山」に先行注力



② 山岳・山里・名古屋周辺都市・名古屋都心の観光活性化

③ 回復遅れの時間を活かし、  
「量ではなく質」で勝負する企画を

マーケットを見極め、付加価値に見合った価格で、  
稼ぐ力を強化する

- ① 価格転嫁のアクション
- ② 付加価値に見合った価格設定
- ③ 質の向上、商品・サービスの高付加価値化
- ④ 富裕層や高感度層へのアタック

グループ横断的なマーケティング推進体制の構築

# 社会資本の整備や医療・防災等における 事業機会を先行的に獲得する

## PPP・PFI事業への参画等



岐阜公園Park-PFI事業



ドクターヘリ運航の受託

公共交通分担率の向上に向け、  
各モード・事業者の壁を越えて地域全体で取り組む

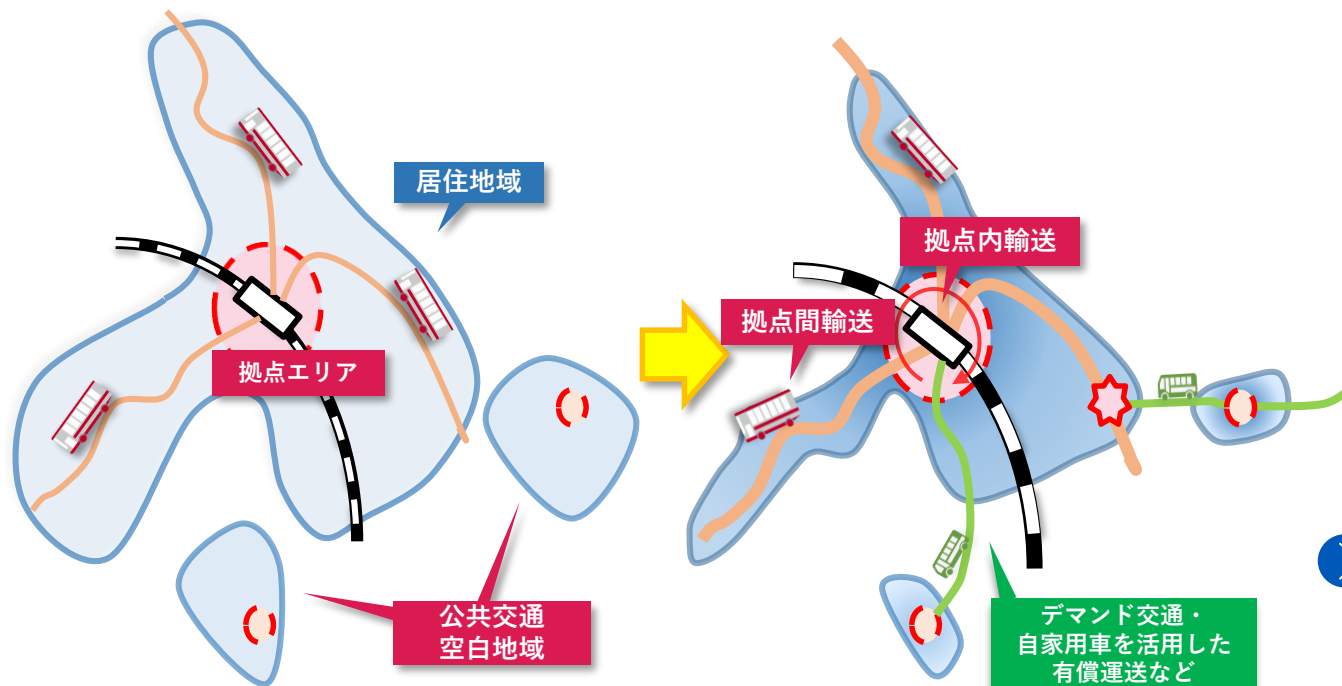
① 「CentX」の高次元化



② 幹線強化・DX等による効率化、ネットワーク化

③ 名古屋市内・都心交通への参画

## 国が提唱するコンパクト・プラス・ネットワークのイメージ



国土交通省資料を基に当社作成

人口減少局面において、市街地が拡散したままでは、  
公共サービスの提供が困難になる

複数の拠点を中心とした地域に居住が集約され、拠点間及び拠点区域内の  
移動需要に対して公共交通の果たす役割が今以上に大きくなる

- 鉄道・バスは拠点間輸送・拠点内輸送として今後もこれまで以上に重要な役割を果たす
- タクシーやデマンド交通などの新しいモビリティは、減少するも引き続き残る交通空白地域の移動を確保
- これらのモードをシームレスに繋ぐ役割として、エリア版MaaSアプリ「CentX」がネットワークを支える

人口減少・少子高齢化が進む中において、コンパクト・プラス・ネットワーク型の地域構造への転換により、公共交通沿線への居住集約が進むことで、公共交通分担率の上昇が見込まれる

## ➤ 愛知県岡崎市（モデル都市第3弾）



## ➤ 岐阜県岐阜市（モデル都市第1弾）



## <名鉄グループの関わり>

## 両市が取り組むまちづくり戦略と連携した拠点・交通ネットワークの整備などを推進

### <事例>

- 東岡崎駅再開発事業の推進による賑わい創出
  - ・駅整備による利便性向上
  - ・東岡崎駅南口商業施設「SWING MALL」の開業(2024年4月)
  - ・東岡崎駅北口地区第一種市街地再開発事業(2029年度内竣工予定)
- 自動運転バスの実証実験に参画(2023年)
- エリア版MaaSの実証実験(2022年)

### <事例>

- 名鉄岐阜駅エリアの再開発
- 岐阜市が定める「まちなか居住重点区域」内に分譲マンション『メイツ岐阜』を建設(2025年引渡し予定)
- 岐阜市中心市街地をめぐる自動運転バスの定期運行に協力(2023年11月～2028年3月)
- 岐阜乗合自動車(岐阜バス)による路線再編



03

## 当社運輸成績・ 中期経営計画の進捗について

## ■ 鉄軌道 運輸成績

旅客収入	2025/3 第2四半期	前期 増減率
定期外	261 億円	14.4 %
通勤	161 億円	11.5 %
通学	36 億円 ▲	0.0 %
定期	197 億円	9.2 %
<b>計</b>	<b>459 億円</b>	<b>12.1 %</b>

(注)定期外旅客収入には特別車両料金を含む。

- ・本年3月に実施した運賃改定による増収は概ね想定通りに推移  
(第2四半期時点約36億円 期首想定年間約70億円)
- ・輸送人員の増加により増収

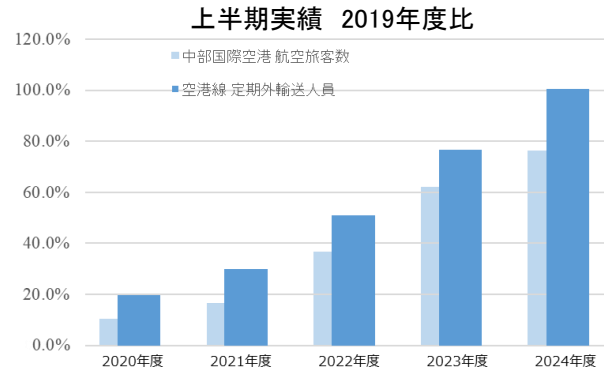
輸送人員	2025/3 第2四半期	前期 増減率
定期外	5,967 万人	2.3 %
通勤	7,580 万人	2.7 %
通学	5,141 万人	0.6 %
定期	12,722 万人	1.8 %
<b>計</b>	<b>18,689 万人</b>	<b>2.0 %</b>

- ・定期については、コロナ前の9割程度で推移
- ・定期外は8月末から9月上旬にかけて台風10号による影響があったものの増加傾向を維持

## ■ 空港線

中部国際空港の航空旅客数は回復傾向にあるものの、コロナ前を下回っている。  
空港線の定期外輸送人員は、名古屋市内の大型コンサートホール改修工事による影響等もあり好調なAichi Sky Expo(愛知県国際展示場)※でのイベント需要を取り込み、コロナ前水準まで回復。

※Aichi Sky Expo : 2019年8月30日開業



### 中部国際空港 (セントレア) 国際線就航動向

2024年11月1日時点  
22都市週310便  
→2024年4月1日時点から  
3都市週35便増

【参考】

2019夏 : 38都市週463便  
2019冬 : 42都市週486便

出典 : 中部国際空港株式会社ホームページ

「リニア中央新幹線開業」、「セントレア滑走路増設」を千載一遇の機会と捉え、沿線・地域に国内外から人を呼び込むため、都市としての名古屋の魅力を高めグループ成長の起爆剤ともなる「名鉄名古屋駅地区再開発」をはじめ、観光活性化や定住促進につながる魅力ある地域づくり・まちづくりを地域とともに推進する。

## 名古屋都心・沿線拠点駅の開発事業の推進

### ▶ 金山・熱田(神宮前)地区の魅力向上

✓神宮前駅西街区において2024年9月6日  
商業施設「あつたnagAya」が第1期開業



- メディア露出多数
- 本年12月に全面開業予定
- 最寄りの神宮前駅の乗降者数約2割増加※

※2024年9月6日～10月31日の定期外乗降者数の前年比較

## 中部圏の観光魅力の磨き上げと発信

### ▶ 飛騨高山の魅力の磨き上げ

✓「新穂高ロープウェイ」山頂駅エリア  
「頂の森」が完成  
2024年10月11日にグランドオープン



- 滞在時間が長くなり、消費単価が約2割増加※
- 山頂駅エリア・中間駅エリアも順次整備

※2024年10月末時点での累計実績と2019年の同期間で比較

人口減少・少子高齢化時代に対応したコンパクト・プラス・ネットワーク型の地域構造や持続可能な社会を築くことに貢献するため、名鉄名古屋駅をはじめとする交通拠点整備や、エリア版MaaSの進化・展開などを通じて、公共交通を中心とするモビリティネットワークを実現する。

## 最適な交通ネットワーク構築に向けた取り組みの推進

### 自治体・学術機関との連携による デマンド交通の取り組み

- ✓ 名古屋市の公共交通空白地におけるAIオンデマンド交通の実証実験に参画  
\* 名古屋市、名古屋大学、地域住民団体等との共創
- ✓ 上記実証実験開始にあたり、名古屋市版MaaSアプリ「デライド」のサービス提供を開始



### 沿線での地域MaaSの推進

- 東三河MaaS 「いこまい」
- 一宮MaaS 「イッテミーヤ」




⇨これまで岡崎市、春日井市、常滑市にて実施

## エリア版MaaS「CentX」の進化および展開の強化

### 決済手段多様化への対応

- ✓ QRコードを利用したデジタル乗車サービスの  
実証実験を実施  
\* 東海旅客鉄道株式会社、北恵那交通株式会社と3社共同

⇒都市交通と地域交通を連携させたデジタル乗車サービスの  
実用性および利便性の検証



\*馬籠周遊きっぷ…JR中央本線の一部区間を利用できるQRコード乗車券と、北恵那交通のバス路線である馬籠線の「馬籠フリー乗車券」をセットにしたもの

需要に応じた構造改革を継続的に推進するとともに、成長市場に向けた事業展開、競争優位となる戦略構築、提供商品・サービスの高付加価値化、当社グループのブランドアップに注力し、グループ全体の収益力の向上を図る。

## 成長が見込まれる市場・競争力を持つ事業における展開強化

### 競争力を持つ既存事業の展開強化

#### ● 運送事業【名鉄運輸グループ】

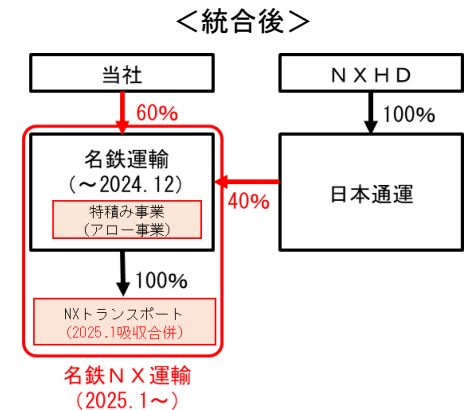
2024年名鉄グループとNXグループ間の特積み事業統合に関する各種契約を締結  
2025年1月1日に特積み事業統合を実施

特積み事業において「業界第3位※」の売上規模となる見込み

※当社調べ

### <事業統合に伴う各種施策(抜粋)>

- ✓ 統合によるコスト削減  
管理部門の人件費削減・施設使用料の削減など
- ✓ 運行路線や集配エリアの見直し・積載効率上昇による収支改善
- ✓ 商号の変更 ⇒ 2025年1月1日より「名鉄NX運輸株式会社」へ
- ✓ 名鉄運輸・NX両グループの店所統合  
路線事業の効率化を目的に5か所の拠点を統合し、運営主体会社を名鉄NX運輸に変更(2025年1月)
- ✓ 運賃体系の統一



## 高付加価値化・差別化された商品・サービスの提供

### ➤ 富裕層・高感度層をターゲットとしたビジネスの展開強化

- ✓ 観光重点エリアである犬山エリア・飛騨高山エリアでの富裕層向け観光コンテンツの造成
- 富裕層を顧客に持つ旅行会社を招聘、反響を踏まえ11月より販売開始



### ✓ 高価格帯の観光バスツアーの造成

- 岐阜乗合自動車提供のプレミアムバスツアー「きわみ」シリーズが好調



## デジタル技術・先進技術等を活用した変革への挑戦

### ➤ キャッシュレス化に向けた取り組み

- ✓ QRコード及びクレジットカード等のタッチ決済による改札通過の実証実験対象駅を拡大
- 2024年3月末より実証実験を開始  
10月より3駅から13駅に拡大
- インバウンドを含む当地域への来訪者に対して多様な決済手段を提供
- 駅窓口の混雑緩和



### ➤ 外部パートナーとの連携

- ✓ 日本最大級のオープンイノベーション拠点「STATION Ai」にパートナー参画



⇨STATION Aiとは…

愛知県が推進する「愛知スタートアップ戦略」の中核プロジェクトとして建設された、500社を超える企業が集まる日本最大級のオープンイノベーション拠点  
国内外のスタートアップや事業会社、金融機関や大学等がオフィスを構え、交流を深めることで、これまでにない企業間連携を促進させ、新たな価値を生み出すハブとなる

中長期経営戦略を実現するための源泉は「人財」であり、人財投資による当社グループで働く人々のウェルビーイング向上を通じて、人財の確保・育成など人的資本の充実を図る。

## 中長期経営戦略と連動した人事ビジョン・戦略の推進

### ➤ 多様な人財が安心して働き続けられる環境づくり

#### ○育児・介護等両立支援の拡充(2024年4月)

→短時間・短日数勤務や休暇制度を中心に、従来より法定以上の支援を実施。2024年4月からは手当新設やカフェテリアプラン導入等により、サポートを一層充実

#### ○「名鉄グループカスタマーハラスメントに対する基本方針」の策定(2024年9月)

→従業員の人権を守るとともに、安心して働ける環境を整えるために策定

#### ○「名鉄グループジョブチェンジ制度」の導入(2024年10月)

→家族の事情や年齢・体力的な制約などで、現在の会社で仕事を継続することができない場合等に、他のグループ会社に転籍・出向することができる制度を導入

#### ○女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定取得(2024年10月)

→女性の個性と能力が十分に発揮できるよう、さらなる活躍推進に取り組む

女性活躍推進法に基づく  
えるぼし認定(2024年)



### ➤ 自律的なキャリア形成のサポート

#### ○「キャリアチャレンジ制度」の導入(2024年11月)

→自律的なキャリア形成とそれによる成長を実現するため、グループ内での副業や異動について、公募により希望者が自ら応募できる制度を導入

### ➤ 健康経営の推進

#### ○「名鉄グループ健康経営方針」の策定(2024年10月)

- ✓ 定期健康診断や特定検診の受診率100%を維持、受診後の個別指導を行う
- ✓ 健康アプリの導入
- ✓ 安全衛生委員会の運営
- ✓ ソフト・ハード両面での職場環境整備

#### ○健康経営優良法人に3年連続認定



04

## 2025年3月期 第2四半期(中間期) 決算実績



( ) は増減率

(単位：百万円、%)

	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減	摘要	前回予想 (5月時点)	増減
営業収益	334,518	283,728	50,790 (17.9)	運送 +22,233 不動産 +15,751 交通 +6,891 その他 +4,877 航空関連サービス +1,540 レジャーサービス +1,504 流通 +554	330,000	4,518 (1.4)
営業利益	24,168	15,900	8,267 (52.0)	交通 +3,777 不動産 +2,514 航空関連サービス +1,122 流通 +753 その他 +417 運送 +56 レジャーサービス △424	20,000	4,168 (20.8)
経常利益	28,411	17,293	11,117 (64.3)	営業外収益 +3,099 営業外費用 +250	20,000	8,411 (42.1)
特別利益	3,022	1,153	1,869	負ののれん発生益 +1,456 工事負担金等受入額 +365	3,200	△ 177
特別損失	1,062	3,694	△ 2,631	助成金返還引当金繰入額 △2,288 工事負担金等圧縮額 +423	2,300	△ 1,237
税金等調整前 中間純利益	30,371	14,753	15,618 (105.9)		20,900	9,471 (45.3)
法人税等	8,413	4,587	3,825		6,500	1,913
非支配株主利益	369	185	184		400	△ 30
親会社株主に帰属する 中間純利益	21,588	9,980	11,608 (116.3)		14,000	7,588 (54.2)

## 【連結子会社および持分法適用会社の異動状況（対前期末）】

◆連結子会社 106社 (+ 2社) : 増加2社 NXトランスポート(新規加入)、名鉄リテールホールディングス(新規設立)

◆持分法適用会社 15社 (+ 1社) : 増加1社 トーセイ(新規加入)

# 決算実績ポイント

対前年同期：増収・増益（連結子会社が加入した運送事業を中心に全事業で増収。業務委託料などの費用が増加したものの、各段階利益で増益。）

		(単位：億円)	
営業収益	+507億円	+	運送事業 +222（トラック事業+215〈連結子会社の新規加入〉 海運事業+7） + 不動産事業 +157（分譲事業+135〈首都圏マンションの販売増〉 賃貸事業+19 管理事業+3） + 交通事業 +68（鉄軌道事業+49〈輸送人員+2.0%：定期外+2.3% 定期+1.8%〉 バス事業+18 タクシー事業+1） + その他の事業 +48（設備保守整備事業+37 その他+11）
営業費用	+425億円	+	業務委託料 +163（運送事業+152 不動産事業+7） + 商製品売上原価 +105（不動産事業+104） + 人件費 +71（運送事業+41 交通事業+12 その他の事業+5）
営業利益	+82億円	+	交通事業 +37（鉄軌道事業+30 バス事業+8 タクシー事業▲1） + 不動産事業 +25（分譲事業+28 賃貸事業▲3 管理事業▲0） + 航空関連サービス事業 +11
経常利益	+111億円		営業増益に加え、持分法による投資利益の増加などにより営業外損益の改善もあり増益（営業外損益+28）
最終利益	+116億円		経常増益に加え、負ののれん発生益の計上や助成金返還引当金繰入額の反動減などによる特別損益の改善もあり増益（特別損益+45）

対前回予想(5月)：増収・増益（需要回復傾向にあるレジャー・サービス事業を中心に増収。増収や費用減少、営業外損益の改善により各段階利益で増益。）

営業収益	+45億円	+	レジャー・サービス事業 +31（旅行業+30 ホテル業+4 観光施設事業▲3） + その他の事業 +22（設備保守整備事業+13 その他+8） + 交通事業 +8（鉄軌道事業+9 バス事業+5 タクシー事業▲6）
営業利益	+41億円	+	交通事業 +20（鉄軌道事業+11 バス事業+9） + 不動産事業 +13（賃貸事業+8 分譲事業+5） - 運送事業 ▲7（トラック事業▲10 海運事業+2）
経常利益	+84億円		持分法による投資利益の増加などによる営業外損益の改善 +42
最終利益	+75億円		整理損失引当金繰入額の減少などによる特別損益の改善 +10

(単位：百万円、%)

営業収益	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率	前回予想 (5月時点)	増減額	増減率
交通事業	79,527	72,636	6,891	9.5	78,700	827	1.1
運送事業	91,581	69,347	22,233	32.1	91,600	△ 18	△ 0.0
不動産事業	61,268	45,517	15,751	34.6	61,400	△ 131	△ 0.2
レジャー・サービス事業	49,870	48,365	1,504	3.1	46,700	3,170	6.8
流通事業	32,221	31,666	554	1.8	32,500	△ 278	△ 0.9
航空関連サービス事業	13,482	11,941	1,540	12.9	12,700	782	6.2
その他の事業	26,603	21,725	4,877	22.5	24,400	2,203	9.0
調整額	△ 20,035	△ 17,472	△ 2,563	—	△ 18,000	△ 2,035	—
合計	334,518	283,728	50,790	17.9	330,000	4,518	1.4

営業利益	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率	前回予想 (5月時点)	増減額	増減率
交通事業	11,840	8,063	3,777	46.8	9,800	2,040	20.8
運送事業	1,051	994	56	5.7	1,800	△ 748	△ 41.6
不動産事業	9,196	6,682	2,514	37.6	7,800	1,396	17.9
レジャー・サービス事業	1,400	1,824	△ 424	△ 23.2	1,400	0	0.0
流通事業	△ 1,148	△ 1,902	753	—	△ 1,100	△ 48	—
航空関連サービス事業	797	△ 325	1,122	—	100	697	697.3
その他の事業	899	481	417	86.7	100	799	799.6
調整額	131	81	49	—	100	31	—
合計	24,168	15,900	8,267	52.0	20,000	4,168	20.8

<前期比>

「交通事業」「運送事業」「不動産事業」「その他の事業」で増収・増益  
「航空関連サービス事業」で増収・黒字化  
「流通事業」で増収・赤字幅縮小  
「レジャー・サービス事業」で増収・減益

(単位：百万円、%)

	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率	摘 要
営業収益	79,527	72,636	6,891	9.5	鉄軌道事業やバス事業において運賃改定の効果があったほか、輸送人員の増加などにより増収
営業利益	11,840	8,063	3,777	46.8	人件費や修繕費の増加があったものの、増収により増益

## ◆交通事業の内訳◆

(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率
鉄軌道事業	48,854	43,934	4,920	11.2	9,425	6,340	3,085	48.7
バス事業	21,028	19,160	1,868	9.8	2,095	1,242	852	68.6
タクシー事業	10,706	10,547	159	1.5	234	391	△157	△40.1
調整額	△1,061	△1,005	△56	—	85	88	△3	—
交通事業計	79,527	72,636	6,891	9.5	11,840	8,063	3,777	46.8

## <名古屋鉄道 運輸成績>

(単位：百万円、%)

旅客収入	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減率
定期外	26,177	22,882	14.4
通勤	16,109	14,451	11.5
通学	3,660	3,660	△0.0
定期	19,769	18,111	9.2
計	45,947	40,993	12.1

(単位：千人、%)

輸送人員	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減率
定期外	59,674	58,320	2.3
通勤	75,803	73,810	2.7
通学	51,417	51,131	0.6
定期	127,220	124,941	1.8
計	186,894	183,261	2.0

※定期外旅客収入には特別車両料金を含む。

(単位：百万円、%)

	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率	摘 要
営業収益	91,581	69,347	22,233	32.1	トラック事業で当期に連結加入した子会社の収入が寄与し増収
営業利益	1,051	994	56	5.7	トラック事業で収支悪化したものの、海運事業の増益により全体では増益

## ◆運送事業の内訳◆

(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率
トラック事業	99,064	76,545	22,519	29.4	△ 227	293	△ 520	—
海運事業	9,815	9,100	714	7.9	1,265	639	626	98.0
調整額	△ 17,298	△ 16,298	△ 1,000	—	12	61	△ 49	—
運送事業計	91,581	69,347	22,233	32.1	1,051	994	56	5.7

(単位：百万円、%)

	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率	摘要
営業収益	61,268	45,517	15,751	34.6	分譲マンション販売の引渡戸数が増加したことに加え、 賃貸事業の増収もあり増収
営業利益	9,196	6,682	2,514	37.6	賃貸事業で減益となったものの、分譲事業の増益により 全体では増益

## ◆不動産事業の内訳◆

(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率
賃貸事業	28,023	25,783	2,240	8.7	4,976	5,316	△ 340	△ 6.4
分譲事業	30,590	17,090	13,500	79.0	3,977	1,081	2,895	267.8
管理事業	7,436	6,837	599	8.8	244	291	△ 46	△ 16.0
調整額	△ 4,782	△ 4,194	△ 588	—	△ 1	△ 6	5	—
不動産事業計	61,268	45,517	15,751	34.6	9,196	6,682	2,514	37.6

## <名鉄都市開発の分譲マンション販売>

(単位：戸、%)

	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減率
引渡戸数(計)	493	346	42.5
名古屋	44	86	△ 48.8
首都圏	370	104	255.8
関西	79	156	△ 49.4

## <名鉄協商の駐車場保有台数・件数>

(単位：%)

	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減率
保有台数(台)	92,837	90,560	2.5
保有件数(ヶ所)	4,029	3,934	2.4

(単位：百万円、%)

	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率	摘要
営業収益	49,870	48,365	1,504	3.1	観光需要の回復によりホテル業を中心に増収
営業利益	1,400	1,824	△424	△23.2	ホテル業で黒字化したものの、旅行業の減益により全体では減益

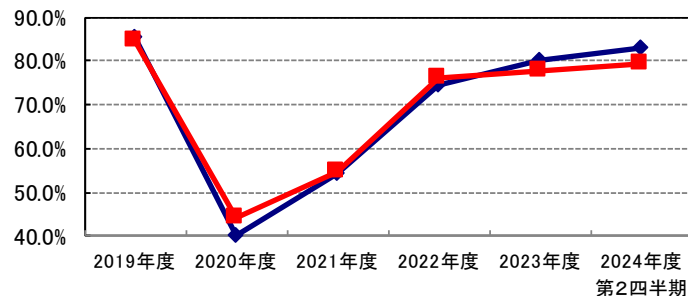
## ◆レジャー・サービス事業の内訳◆

(単位：百万円、%)

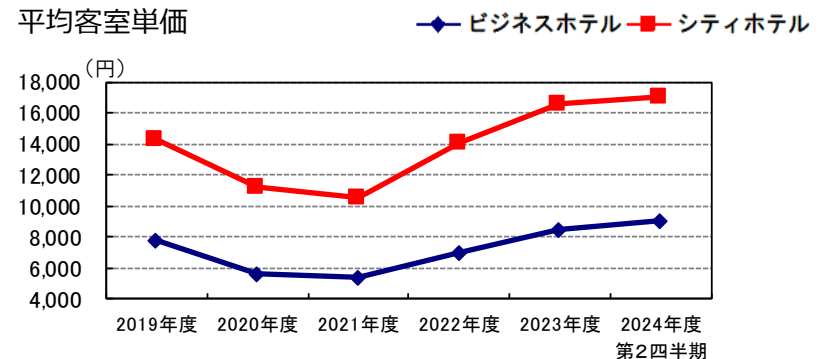
	営業収益				営業利益			
	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率
ホテル業	11,431	10,149	1,281	12.6	426	△121	548	—
観光施設事業	10,660	10,149	511	5.0	600	681	△80	△11.8
旅行業	27,998	28,361	△362	△1.3	380	1,274	△894	△70.1
調整額	△219	△294	74	—	△7	△10	2	—
レジャー・サービス事業 計	49,870	48,365	1,504	3.1	1,400	1,824	△424	△23.2

## <名古屋市内主要グループホテルの宿泊稼働率・宿泊単価>

### (1) 客室稼働率



### (2) 平均客室単価



(単位：百万円、%)

	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率	摘要
営業収益	32,221	31,666	554	1.8	店舗閉鎖による百貨店業の減収があったものの、その他物品販売業の増収により全体では増収
営業利益	△ 1,148	△ 1,902	753	—	増収に加え、百貨店業の不採算店舗の閉鎖による収支改善もあり赤字幅縮小

## ◆流通事業の内訳◆

(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率
百貨店業	7,743	8,458	△ 714	△ 8.4	△ 1,010	△ 1,486	476	—
その他物品販売	24,571	23,336	1,234	5.3	△ 138	△ 346	208	—
調整額	△ 94	△ 128	34	—	△ 0	△ 69	68	—
流通事業計	32,221	31,666	554	1.8	△ 1,148	△ 1,902	753	—



(単位：百万円、%)

	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率	摘要
営業収益	13,482	11,941	1,540	12.9	機内食事業の受注増加や航空事業における物資輸送等の増加もあり増収
営業利益	797	△ 325	1,122	—	増収による黒字化

## ◆航空関連サービス事業の内訳◆

(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率
航空関連サービス事業	13,600	12,086	1,513	12.5	792	△ 331	1,123	—
調整額	△ 117	△ 144	26	—	5	6	△ 1	—
航空関連サービス事業 計	13,482	11,941	1,540	12.9	797	△ 325	1,122	—

(単位：百万円、%)

	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率	摘要
営業収益	26,603	21,725	4,877	22.5	前期に連結加入した建設子会社の収入が寄与したことに加え、設備工事の受注増加もあり増収
営業利益	899	481	417	86.7	増収による増益

◆その他の事業の内訳◆

(単位：百万円、%)

	営業収益				営業利益			
	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	増減率
設備保守整備事業	13,670	9,944	3,725	37.5	372	△ 184	557	—
その他	13,334	12,247	1,086	8.9	564	662	△ 98	△ 14.9
調整額	△ 401	△ 466	65	—	△ 37	3	△ 40	—
その他の事業計	26,603	21,725	4,877	22.5	899	481	417	86.7

# 営業外損益・特別損益

(単位：百万円)

	2025/3 第2四半期	2024/3 第2四半期	増減額	摘要
営業外収益	6,187	3,087	3,099	
受取利息	55	21	33	
受取配当金	1,215	757	458	
持分法による投資利益	4,092	1,262	2,829	(当期) トーセイ新規加入
整理損失引当金戻入益	3	22	△ 19	
その他	821	1,022	△ 201	
営業外費用	1,944	1,694	250	
支払利息	1,685	1,482	203	
その他	258	211	47	
営業外損益 計	4,243	1,393	2,849	
特別利益	3,022	1,153	1,869	
負ののれん発生益	1,456	—	1,456	(当期) NXトランスポート新規加入
工事負担金等受入額	784	419	365	(当期) 鉄道高架橋耐震補強工事等
固定資産売却益	550	545	4	
投資有価証券売却益	180	73	107	
その他	50	115	△ 65	
特別損失	1,062	3,694	△ 2,631	
工事負担金等圧縮額	760	337	423	(当期) 鉄道高架橋耐震補強工事等
減損損失	127	152	△ 24	
固定資産除却損	99	158	△ 59	
固定資産売却損	37	23	14	
投資有価証券評価損	—	49	△ 49	
その他	37	2,974	△ 2,936	(前期) 助成金返還引当金繰入額
特別損益 計	1,959	△ 2,540	4,500	

(単位：百万円)

	2025/3 第2四半期	2024/3 期末	増減額	摘要										
流動資産	262,728	238,484	24,243	現金及び預金の増加										
固定資産	1,107,082	1,064,720	42,362	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>設備投資</td> <td>+27,513</td> </tr> <tr> <td>子会社連結加入</td> <td>+6,915</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>△20,304</td> </tr> <tr> <td>減損損失</td> <td>△127</td> </tr> <tr> <td>除却</td> <td>△67</td> </tr> </table> </div>	設備投資	+27,513	子会社連結加入	+6,915	減価償却費	△20,304	減損損失	△127	除却	△67
設備投資	+27,513													
子会社連結加入	+6,915													
減価償却費	△20,304													
減損損失	△127													
除却	△67													
有形固定資産	917,699	893,624	24,075											
無形固定資産	13,075	13,963	△887											
投資その他の資産	176,307	157,133	19,174											
資産合計	1,369,810	1,303,205	66,605	株式取得による投資有価証券の増加										
流動負債	304,999	308,949	△3,950	支払手形及び買掛金の減少										
固定負債	587,834	530,201	57,632	社債の発行										
負債合計	892,833	839,151	53,682											
純資産合計	476,977	464,054	12,923	親会社株主に帰属する中間純利益 +21,588 剰余金の配当 △5,406 その他有価証券評価差額金 △2,473										
負債純資産合計	1,369,810	1,303,205	66,605											
連結有利子負債合計	566,664	519,502	47,161	〔参考〕純有利子負債残高 491,283 (前期末比 +32,168)										

05

## 2025年3月期 業績予想

(単位：百万円、%)

	2025/3 今回予想	2025/3 前回予想 (5月時点)	増減額	増減率	2024/3 実績	増減額	増減率
営業収益	686,000	675,000	11,000	1.6	601,121	84,879	14.1
営業利益	41,000	40,000	1,000	2.5	34,750	6,250	18.0
営業外収益	9,200	5,100	4,100		6,737	2,463	
営業外費用	4,200	4,600	△400		3,943	257	
経常利益	46,000	40,500	5,500	13.6	37,544	8,456	22.5
特別利益	8,800	7,300	1,500		5,390	3,410	
特別損失	12,800	6,600	6,200		8,388	4,412	
親会社株主に帰属する 当期純利益	29,000	28,000	1,000	3.6	24,400	4,600	18.9
E B I T D A	82,900	82,200	700	0.9	73,630	9,270	12.6
設備投資額	98,200	98,200	—	—	76,818	21,382	27.8
減価償却費	41,900	42,200	△300	△0.7	38,879	3,021	7.8
純有利子負債	490,000	490,000	—	—	459,114	30,886	6.7

※EBITDA＝営業利益＋減価償却費、純有利子負債＝有利子負債－現預金・短期有価証券

前回予想（5月10日）比では、第2四半期実績及び社会経済情勢を踏まえ、営業収益は、想定より観光需要が回復傾向にあるレジャー・サービス事業や資産売却を見込む不動産事業を中心に増収と予想。営業利益は、運送事業で減益となるものの、交通事業や不動産事業を中心に連結全体では増益の見込み。経常利益は、営業増益に加え、持分法による投資利益の増加に伴う営業外損益の改善により増益となり、最終の当期純利益は、特別損益の悪化を見込むものの、経常増益により増益となる見通し。

# 業績予想ポイント

**対前期：増収・増益**（事業統合を実施する運送事業のほか、不動産事業や交通事業を中心に増収。各段階利益も増収により増益の見通し。）

（単位：億円）

営業収益	+848億円	<ul style="list-style-type: none"> <li><span style="color: blue;">+</span> 運送事業 +478（トラック事業+465〈事業統合による増〉 海運事業+13）</li> <li><span style="color: blue;">+</span> 不動産事業 +198（分譲事業+172〈分譲マンションの引渡戸数の増〉 賃貸事業+19 管理事業+7）</li> <li><span style="color: blue;">+</span> 交通事業 +106（鉄軌道事業+82 バス事業+21 タクシー事業+3）</li> </ul>
営業利益	+62億円	<ul style="list-style-type: none"> <li><span style="color: blue;">+</span> 交通事業 +44（鉄軌道事業+37 バス事業+7 タクシー事業▲0）</li> <li><span style="color: blue;">+</span> 流通事業 +10（その他物品販売+7 百貨店業+3）</li> </ul>
経常利益	+84億円	営業増益に加え、持分法による投資利益の増加などによる営業外損益の改善により増益（営業外損益改善+22）
最終利益	+46億円	特別損益の悪化を見込むものの、経常増益により増益（特別損益悪化▲10）

**対前回予想(5月)：増収・増益**（レジャー・サービス事業や不動産事業を中心に増収。各段階利益も増収や営業外損益の改善により増益の見通し。）

営業収益	+110億円	<ul style="list-style-type: none"> <li><span style="color: blue;">+</span> レジャー・サービス事業 +64（旅行業+55 ホテル業+10 観光施設事業▲1）</li> <li><span style="color: blue;">+</span> 不動産事業 +33（分譲事業+24 賃貸事業+8 管理事業+1）</li> </ul>
営業利益	+10億円	<ul style="list-style-type: none"> <li><span style="color: blue;">+</span> 交通事業 +14（バス事業+11 鉄軌道事業+5 タクシー事業▲2）</li> <li><span style="color: blue;">+</span> 不動産事業 +8（賃貸事業+5 分譲事業+3 管理▲0）</li> <li><span style="color: red;">-</span> 運送事業 ▲14（トラック事業▲14 海運事業+0）</li> </ul>

経常利益 +55億円 <名古屋鉄道 運輸成績予想>

（単位：百万円、%）

（単位：千人、%）

旅客収入	2025/3 今回予想	2025/3 前回予想 (5月時点)	2024/3 実績
定期外	51,804	51,380	46,900
通勤	32,155	31,235	28,683
通学	6,845	6,900	6,849
定期	39,001	38,135	35,533
計	90,805	89,516	82,434

輸送人員	2025/3 今回予想	2025/3 前回予想 (5月時点)	2024/3 実績
定期外	118,869	117,896	118,868
通勤	149,241	145,022	146,210
通学	96,156	96,388	95,614
定期	245,397	241,410	241,824
計	364,266	359,306	360,692

※定期外旅客収入には特別車両料金を含む。

# 2025年3月期 セグメント別営業成績予想

(単位：百万円、%)

営業収益	2025/3 今回予想	2025/3 前回予想 (5月時点)	増減額	増減率	2024/3 実績	増減額	増減率
交通事業	157,200	156,700	500	0.3	146,582	10,618	7.2
運送事業	186,200	186,000	200	0.1	138,308	47,892	34.6
不動産事業	127,800	124,500	3,300	2.7	107,906	19,894	18.4
レジャー・サービス事業	99,200	92,800	6,400	6.9	98,772	428	0.4
流通事業	66,500	66,900	△ 400	△ 0.6	66,676	△ 176	△ 0.3
航空関連サービス事業	28,700	27,900	800	2.9	26,278	2,422	9.2
その他の事業	61,600	60,700	900	1.5	56,383	5,217	9.3
調整額	△ 41,200	△ 40,500	△ 700	—	△ 39,786	△ 1,414	—
合計	686,000	675,000	11,000	1.6	601,121	84,879	14.1

営業利益	2025/3 今回予想	2025/3 前回予想 (5月時点)	増減額	増減率	2024/3 実績	増減額	増減率
交通事業	17,400	16,000	1,400	8.8	12,980	4,420	34.1
運送事業	2,500	3,900	△ 1,400	△ 35.9	1,792	708	39.5
不動産事業	15,600	14,800	800	5.4	15,967	△ 367	△ 2.3
レジャー・サービス事業	2,400	2,400	—	—	2,671	△ 271	△ 10.1
流通事業	△ 1,600	△ 1,400	△ 200	—	△ 2,697	1,097	—
航空関連サービス事業	1,700	1,600	100	6.3	1,087	613	56.4
その他の事業	2,900	2,600	300	11.5	3,299	△ 399	△ 12.1
調整額	100	100	—	—	△ 351	451	—
合計	41,000	40,000	1,000	2.5	34,750	6,250	18.0



(単位：百万円)

		2025/3 今回予想	2024/3 実績	増減額
交通事業	営業利益	17,400	12,980	4,420
	減価償却費	18,700	17,847	853
	EBITDA(①)	36,100	30,827	5,273
	設備投資額(②)	38,800	25,578	13,222
	差引(①-②)	△ 2,700	5,249	△ 7,949
運送事業	営業利益	2,500	1,792	708
	減価償却費	8,300	7,120	1,180
	EBITDA(①)	10,800	8,912	1,888
	設備投資額(②)	11,500	7,053	4,447
	差引(①-②)	△ 700	1,859	△ 2,559
不動産事業	営業利益	15,600	15,967	△ 367
	減価償却費	6,200	5,594	606
	EBITDA(①)	21,800	21,562	238
	設備投資額(②)	30,100	30,515	△ 415
	差引(①-②)	△ 8,300	△ 8,952	652
レジャー・サービス事業	営業利益	2,400	2,671	△ 271
	減価償却費	1,200	1,134	66
	EBITDA(①)	3,600	3,805	△ 205
	設備投資額(②)	2,900	1,839	1,061
	差引(①-②)	700	1,966	△ 1,266

※EBITDA=営業利益+減価償却費

		2025/3 今回予想	2024/3 実績	増減額
流通事業	営業利益	△ 1,600	△ 2,697	1,097
	減価償却費	1,200	1,217	△ 17
	EBITDA(①)	△ 400	△ 1,480	1,080
	設備投資額(②)	1,600	1,635	△ 35
	差引(①-②)	△ 2,000	△ 3,115	1,115
航空関連サービス事業	営業利益	1,700	1,087	613
	減価償却費	2,800	2,790	10
	EBITDA(①)	4,500	3,877	623
	設備投資額(②)	8,100	4,211	3,889
	差引(①-②)	△ 3,600	△ 333	△ 3,267
その他の事業	営業利益	2,900	3,299	△ 399
	減価償却費	3,800	3,630	170
	EBITDA(①)	6,700	6,929	△ 229
	設備投資額(②)	5,200	5,985	△ 785
	差引(①-②)	1,500	944	556
合計 (連結間調整後)	営業利益	41,000	34,750	6,250
	減価償却費	41,900	38,879	3,021
	EBITDA(①)	82,900	73,630	9,270
	設備投資額(②)	98,200	76,818	21,382
	差引(①-②)	△ 15,300	△ 3,188	△ 12,112



本資料の情報のうち、過去の事実以外のものは将来の見通しであり、リスクや不確実性を含んだものです。実際には、様々な要因により異なる結果となる場合があることをご承知おきください。